

令和4年度（令和5年度実施）事務事業評価表

事業整理番号 0702 - 13

事務事業名	生きづらさ支援員体制強化事業（ひきこもり支援）	担当組織	保健福祉部	福祉総務課
-------	-------------------------	------	-------	-------

事業特性										
事業を開始する年度	3年度	事業終了年度		計画ノ一般	計画	計画事業No.	3-	2-	3-	6
	単独ノ補助	国・都補助事業	運営形態	全部業務委託	関連するSDGsのゴール	3				
事業を構成する予算事業	① ひきこもり支援事業経費(R4は生活困窮者自立支援事業経費に計上)		②							

政策体系（令和4年度基本計画）			
地域づくりの方向	すべての人が地域で共に生きていけるまち	政策	地域における自立生活支援
施策	社会参加の促進	政策番号	3-2-3
関連する個別計画		計画策定年度	計画期間

1. 事業の概要・指標の達成状況

(1)実施の対象(具体的に記載)	ひきこもり状態にある当事者やその家族を支援することを目的に、誰でも相談できる「ひきこもり相談窓口」の開設や、ひきこもりに関する知識の普及啓発を行う。							
(2)事業の目的・期待する効果	ひきこもり状態にある当事者やその家族が孤立せず、他とつながりがもてる、居場所ができるようになること。							
(3)事業概要	事業者へ委託し相談支援の他、窓口の周知や専用情報サイトでの広報等を行う。							
(4)目標の達成状況	4年度の取組内容 4年度に実施した具体的な業務内容	協議会等の開催、生きづらさ支援員を配置したひきこもり専門相談窓口で当事者や家族の相談支援を行った。						
	成果指標 事業目標の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	3年度(実績)	4年度(計画)	4年度(実績)	5年度(計画値)
	①	新規相談件数	→	人	79	100	86	86.0
	②							
指標の説明	①引きこもり窓口での新規相談年間件数							
未達成の状況	未達成	未達成または一部未達成の理由	想定より実際の相談者数が下回った					
(5)取組実績	活動指標 事業の実施状況	活動指標	目指す方向性	単位	3年度(実績)	4年度(計画)	4年度(実績)	5年度(計画値)
	①	ひきこもり相談対応件数	→	人	—	1500	1565	104.3
	②	情報サイト閲覧者数	↗	件	—	11,000	13,759	125.1
	③							
指標の説明	①ひきこもり相談窓口での年間対応件数 ②当事者やご家族、支援者に向け、相談窓口での支援メニュー、支援団体の情報等を発信する専用情報サイトの閲覧者数							
未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由						

2. 事業費の推移

単位 (金額の項目:千円 人数の項目:人)	3年度		4年度			5年度		
	予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減(R4決算比)	
事業費	A	11,169	9,188	26,671	23,815	89.3%	25,856	2,041
人件費	【正規(人数)】	—	(0.00)	—	(0.40)		(1.20)	—
	【会計年度任用職員等(人数)】	—	(0.00)	—	(0.00)		(0.00)	—
人件費B	B	—	0	—	3,400		10,200	6,800
事業費(人件費含む)	C=A+B	—	9,188	—	27,215		36,056	8,841
財源内訳	国、都支出金			0	11,731		16,848	5,117
	使用料・手数料	D						0
	地方債・その他							0
一般財源	E=C-D	—	9,188	—	15,484		19,208	3,724

3. 総合評価及びR5年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和4年度成果と課題	【指標の達成状況(a)】 →S、A、B、C、Dの5段階で評価	B	根拠	相談件数が伸びず、成果指標が未達成となったため																																				
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。																																							
①目標に対する成果状況を踏まえた課題 情報サイトには支援団体情報や相談会などのイベント情報を掲載するなど、情報発信に力をいれていく。																																								
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果)																																								
(2)業務(事務)改善にむけての取組み	【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	A	根拠	ひきこもりに関する調査結果を踏まえ、講演会を行いひきこもりについての理解や相談窓口の周知を図った																																				
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄に記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。																																							
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲) 情報サイトには支援団体情報や相談会などのイベント情報を掲載するなど、情報発信に力をいれていく。																																							
	②現状の実施状況における所管課の認識																																							
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:30%;">事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。</td> <td style="width:10%; text-align: center;">無</td> <td style="width:10%;">選択の理由</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。</td> <td style="text-align: center;">有</td> <td>選択の理由</td> <td colspan="2">自立支援事業の就労支援、準備事業と同じ事業者へ委託することで、より丁寧な支援が可能となっている。</td> </tr> <tr> <td>サービスに係るコストは適正か</td> <td style="text-align: center;">適正</td> <td>選択の理由</td> <td colspan="2">実施事業毎に金額を積算し、委託料を決定している。</td> </tr> <tr> <td>統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。</td> <td style="text-align: center;">無</td> <td>(有の場合)事業名</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>					事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由			直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	自立支援事業の就労支援、準備事業と同じ事業者へ委託することで、より丁寧な支援が可能となっている。		サービスに係るコストは適正か	適正	選択の理由	実施事業毎に金額を積算し、委託料を決定している。		統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名																		
事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	無	選択の理由																																						
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	自立支援事業の就労支援、準備事業と同じ事業者へ委託することで、より丁寧な支援が可能となっている。																																					
サービスに係るコストは適正か	適正	選択の理由	実施事業毎に金額を積算し、委託料を決定している。																																					
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	無	(有の場合)事業名																																						
③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況																																								
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">対応、改善を既にを行った</td> <td style="width:15%; text-align: center;">いいえ</td> <td style="width:10%; text-align: center;">はい</td> <td style="width:20%;">取組内容及び効果</td> <td style="width:10%;">予算措置</td> <td style="width:30%;"></td> </tr> <tr> <td>対応・改善予定(上記ではい場合は更なる)</td> <td style="text-align: center;">有</td> <td style="text-align: center;">無</td> <td>対応、改善の予定がない理由</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>選択肢に関わらず</td> <td>対応、改善の内容</td> <td>情報サイトの情報を今まで以上に頻繁に更新するなど、情報発信に力を入れる</td> <td>予定時期</td> <td>R5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>有</td> <td>予算措置</td> <td>無</td> <td>有</td> <td>予算措置を伴わない実施との比較検討</td> <td>予算措置を伴う理由</td> </tr> </table>					対応、改善を既にを行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置		対応・改善予定(上記ではい場合は更なる)	有	無	対応、改善の予定がない理由			選択肢に関わらず	対応、改善の内容	情報サイトの情報を今まで以上に頻繁に更新するなど、情報発信に力を入れる	予定時期	R5		有	予算措置	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由												
対応、改善を既にを行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置																																				
対応・改善予定(上記ではい場合は更なる)	有	無	対応、改善の予定がない理由																																					
選択肢に関わらず	対応、改善の内容	情報サイトの情報を今まで以上に頻繁に更新するなど、情報発信に力を入れる	予定時期	R5																																				
有	予算措置	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由																																			
(3)必要性/優先度	【区が実施する必要性(c)】 S、A、B、Cの4段階で評価 ⇒	A	根拠	様々な支援につなげられる行政の窓口は必要である																																				
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄に記載してください。 ※「区他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。																																							
	①区が実施する理由(複数選択可)																																							
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;"> 区他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック </td> <td style="width:50%;"> <input type="checkbox"/> 法律の要請を受けて行う事業である。 </td> </tr> <tr> <td> <input type="checkbox"/> 民間事業者等に同様のサービスがない。 </td> <td> <input type="radio"/> その他(理由) 国(厚生労働省)からの通知が示されているため </td> </tr> </table>					区他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	<input type="checkbox"/> 法律の要請を受けて行う事業である。	<input type="checkbox"/> 民間事業者等に同様のサービスがない。	<input type="radio"/> その他(理由) 国(厚生労働省)からの通知が示されているため																																
区他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック	<input type="checkbox"/> 法律の要請を受けて行う事業である。																																							
<input type="checkbox"/> 民間事業者等に同様のサービスがない。	<input type="radio"/> その他(理由) 国(厚生労働省)からの通知が示されているため																																							
②区民ニーズ																																								
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">区民ニーズを表す指標</td> <td style="width:15%; text-align: center;">有</td> <td style="width:10%; text-align: center;">有</td> <td style="width:10%;">指標番号(活動)</td> <td style="width:10%; text-align: center;">①</td> <td style="width:10%;">指標番号(成果)</td> <td style="width:10%; text-align: center;">①</td> <td style="width:10%;">サービス利用者数</td> <td style="width:10%; text-align: center;">50名以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>「有」「無」</td> <td></td> <td>推移</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td>推移</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="8">ともに記入</td> </tr> <tr> <td></td> <td>区民ニーズに対する認識</td> <td colspan="7">行政だからこそ、安心して相談できると認識している。</td> </tr> </table>					区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(活動)	①	指標番号(成果)	①	サービス利用者数	50名以上		「有」「無」		推移	→	推移	→				ともに記入									区民ニーズに対する認識	行政だからこそ、安心して相談できると認識している。						
区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(活動)	①	指標番号(成果)	①	サービス利用者数	50名以上																																
	「有」「無」		推移	→	推移	→																																		
	ともに記入																																							
	区民ニーズに対する認識	行政だからこそ、安心して相談できると認識している。																																						
総合評価(d=a+b+c)		ランク2																																						

4. R5年6月末時点の状況

①令和5年度当初の課題・ニーズ	令和4年度から「生きづらさ支援員」による相談を開始したが、地域の支援者のひきこりに関する知識不足や、相談窓口の認知度の低さ等が課題である。 また、課題の解決には家族への支援も有効であると考え、家族支援を充実させていく必要がある。
②国・都の動き (関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)	・東京都ひきこもり等のサポートガイドライン(令和5年3月)
③令和5年度の方向性・取組方針(事業展開)	・ひきこもり支援協議会等委員の運用内容や来年度以降の体制を改めて検討 ・ひきこもり支援方針の見直し、R5年度は家族への支援強化を行う ・他自治体や各団体との連携強化を図り、交流会・相談会等の支援を行う
④令和5年度の事業進捗状況(6月末時点)	相談窓口の周知を図るため4月にとしまテレビによる広報を行った他、広報特集号を全戸配布する準備を行っている
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	
⑥上記⑤に対する対応	

今後の事業費予算要望(e)	現状維持	根拠	相談件数は目標に達しなかったが相談に時間のかかる案件が増加しており、引き続き対応が必要
---------------	------	----	---

今後の事業の方向性(d+e) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	B:改善・見直し
---	----------

《上記判断を踏まえた所管課の認識・R5年度以降に向けての対応》

広報特集号の発行やチラシの配布など、引き続き窓口の周知を図る。
また、ネットワーク会議や女性自認の当事者等を対象とした交流の場であるUX女子会等の開催により他自治体や各団体との連携強化を図ることで、当事者や家族がつながりを持てる場を増やしていく。